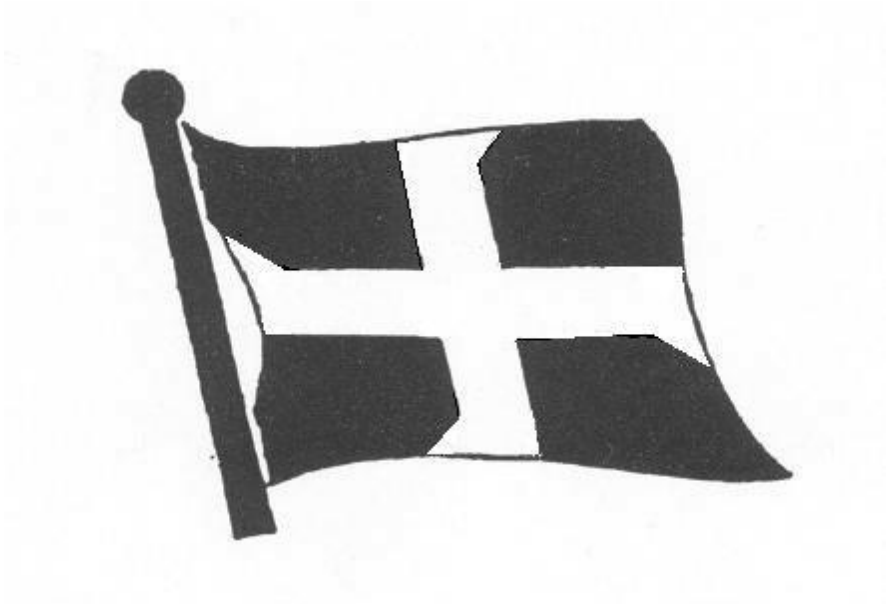
蒼穹 NEWS

No.2

関西インカレ総括号

令和4(2022)年　6月5日発行



－目次－

①主将･女子主将･監督挨拶
②関西インカレ結果
③関西インカレ各競技総括
④その他ご報告

①主将・女子主将・監督挨拶

《主将挨拶》

先日行われました関西インカレにて、男子は49点総合9位となり1部に残留することができ、女子は京大で15点、京都女子大で1点合計で16点を獲得して男女ともに目標を達成することができました。先輩方が守り抜いてきた関西インカレ1部という舞台を守ることができて安心しております。

男子は昨年の関西インカレ終了時から2部降格の可能性も十分に考えられる状況ではありましたが、ハーフマラソンでの大量得点に代表される長距離、山中（2）の優勝など各種目での跳躍の活躍で残留をすることができました。女子については篠田（2）が京大女子史上初の優勝、同時に中野（M2）も表彰台に乗る活躍を見せたやり投、満足に練習できない京都女子大から二年連続で得点をもたらした中芝（2）、実習などの苦しい状況でも意地を見せた女子主将小西（4）など多くの選手が活躍し、京大女子史上最高得点を獲得することができました。

三年ぶりの有観客開催となった今大会、序盤は他大学の雰囲気に押される関西インカレの厳しさを感じる試合となりましたが、日程が進むにつれて徐々にチームとして戦うことができ、本来の対校戦の戦い方をチームが思い出すことができました。これからチームとしては伊勢予選、七大戦へと向かっていきます。チーム全員で戦うことが必要になる試合ばかりですが、そこでは今大会以上の力を見せられるように全員で本気になって向かっていきます。

蒼穹会の皆様には日頃より多大なるご支援ご声援をいただき誠にありがとうございます。今大会では制限がありながらも多くの方に会場に足を運んでいただき、感謝しております。今後も部員全員で本気で戦いますので、変わらぬご支援ご声援のほどよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部主将　眞鍋　聡志

《女子主将挨拶》

関西インカレが終わり、結果は男子1部残留・女子史上最高得点と、男女ともに目標を達成することが出来ました。

特に女子については、やり投に出場した中野（M2）が 48m24 で 3 位、篠田（2）が 50m56 で優勝と、京大陸上部の歴史に残る素晴らしい試合をしてくれました。円盤投で8位入賞した中芝（京女2）についても、練習環境が整わない中今年も大舞台で結果を残してくれました。また例年よりも多くの女子選手がこの関西インカレに出場し、ここまでの過程も含めて今後につながる経験をしてくれたことと思います。

現部員の成長はもちろん、この春多くの新入生が入ったことでさらに勢いを増す女子チームですが、やはり一部の選手の競技力に頼らざるを得ない状況には変わりありません。七大戦優勝という次の目標を達成するには、全体の底上げが必須です。パートや学年、所属大学を問わず、刺激し合ってより高みを目指していきます。

最後になりましたが、蒼穹会の皆様からはいつも多大なご声援とご支援をいただき、本当に感

謝しております。まだまだ今シーズンの対校戦は続きますが、引き続き応援のほどよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部女子主将　小西　菜月

《監督挨拶》

1 年間目標にしてきた対校戦である関西インカレが終了いたしました。男子は 1 部残留を目標にしておりましたが、49点と降格ラインから大きく上回る結果で、安心した気持ちが正直なところです。足立（M1）、柴田（M1）、鈴木（M1）がもたらしてくれたハーフの16点のアドバンテージがやはり大きかったでしょう。また、優勝した山中（2）のように若手選手も台頭してきており来年度も期待がかかります。女子は史上最高得点を目指しましたが京都女子大学を合わせて16点と、こちらも目標を達成いたしました。やはり優勝した篠田（2）、3 位の中野（M2）の功績が大きいでしょう。2 人の選手がようやく関西の壁を破りました。歴史的な瞬間に立ち会えたことをとても光栄に思います。この大きな波に続くよう女子チームも精一杯の努力を重ねて参ります。

最後になりますが、今回も多大なるご支援ご声援をありがとうございました。現地でも多くの蒼穹会の皆様に競技している姿を見せられたことを嬉しく思います。今後とも変わらぬご支援ご声援のほどよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部監督　長谷川　隼

②関西インカレ結果

第99回関西学生陸上競技対校選手権大会
（T&F の部）
2022年5月25日－28 日（水－土）
たけびしスタジアム京都（西京極総合運動公園）

1、男子１部総合得点

第1位	関西学院大	143
第2位	大阪体育大	108
第3位	関西大	102.5
第4位	立命館大	96
第5位	同志社大	70
第6位	近畿大	58
第6位	びわスポ大	58
第8位	京都産業大	55
第9位	京都大	49
第10位	天理大	40
第11位	大阪経済大	24
第12位	大阪教育大	19.5
第13位	びわこ学院大	3

2、男子１部トラック得点

第1位	関西学院大	93
第2位	関西大	82
第3位	立命館大	72
第7位	京都大	31

3、男子１部フィールド得点

第1位	大阪体育大	70
第2位	関西学院大	50
第3位	天理大	40
第7位	京都大	18

4、男子１部混成得点

第1位	大阪体育大	11
第2位	立命館大	7
第2位	同志社大	7

5、男子2部総合得点

第1位	大阪大	162.5
第2位	龍谷大	124.5
第3位	摂南大	116.5

6、男子2部トラック得点

第1位	大阪大	111.5
第2位	龍谷大	85
第3位	摂南大	68

7、男子2部フィールド得点

第1位	摂南大	38.5☒
第2位	大阪国際大	38
第3位	大阪大	35

8、男子2部混成得点

第1位	大阪大	16
第2位	龍谷大	10
第3位	摂南大	6

9、女子総合得点

第1位	立命館大	153
第2位	園田学園女子大	109
第3位	大阪体育大	89
第16位	京都大	15

10、女子トラック得点

第1位	立命館大	127
第2位	園田学園女子大	55
第3位	大阪教育大	28

11、女子フィールド得点

第1位	大阪体育大	74
第2位	園田学園女子大	39
第3位	武庫川女子大	30.5
第16位	京都大	14

12、女子混成得点

第1位	園田学園女子大	15
第2位	東大阪大	8
第2位	大阪体育大	8
第16位	京都大	1

②関西インカレ各競技総括

～短距離～

男子 100m

予選(4 組 3 着＋4)
　1 組　高橋昂生(1)　10.81(+1.2)　5 着
　2 組　吉田悠樹(3)　10.73(+0.3)　7 着
　4 組　山田慎之助(2)　10.92(+1.1)　7 着

　男子 100m 予選には高橋(1)、吉田(4)、山田(2)が出場した。高橋はスタートでキレのある飛び出しができなかったものの、中盤でのスムーズな加速により、PB に迫る 10.81(+1.2)を記録した。吉田は前半から他選手に先行されたが、力強い走りで食らいつき大学ベストタイの 10.73(+0.3)を記録した。山田はスタートからリズムに乗ることができずピッチが上がりきらなかったが、入念な調整の甲斐もありシーズンベストの 10.92(+1.1)を記録した。(髙田)

男子 200m

予選(3 組 2 着＋2)
　1 組　梶原　隆真（M2）　22.29(-1.1)　8 着

　男子 200m 予選には、1 組に梶原(M2)が出場した。スタートから鋭く飛び出し、前半は強い加速をみせたものの、コーナーを抜けてからは精彩を欠き、組 8 着でゴール。1m 以上の向かい風の中でのシーズンベストではあったが、決勝進出はならなかった。(山田)

男子 110mH

予選(3 組 2 着＋2)
　1 組　永田　智季（M1）　14.97(+2.1)　6 着

　男子 110mH 予選 1 組には永田(M1)が出場した。1 台目のハードルに当たり減速してしまったように見えたが、その後インターバルをしっかり刻み、6 着でゴール。中盤まで安定したハードリングを見せ、また終盤も大きなミスは無く、調子の良さが表れていた。タイムは追い風参考ではあるが念願の 14 秒台となり、大きな前進を見せた。本レースは今シーズン初の 110mH 出場であり、今後の記録が期待される。(五十嵐)

男子 400m

　浅井（M2）は怪我のため棄権した。

男子 400mH

　男子 400mHについて酒井（M1）は怪我の影響から、高橋昂（1）も他種目出場の兼ね合いから欠場した。

男子 4×100mR

予選(2 組 3 着＋2)
1 組　京都大　41.20　5 着
(1)梶原　隆真（M2）
(2)吉田　悠樹（4）
(3)高橋　昂生（1）
(4)山田　慎之助（2）

　男子 4×100m には梶原(M2)-吉田(4)-高橋(1)-山田(2)のオーダーで出場した。「全カレ標準の 40"85 を切って得点」を目標に定めていた。一番内側から懸命に外側を追う。2-3 走のバトンがやや詰まり気味で渡ったことを除けばスムーズなレースであった。結果は 41"20 で 5 着とタイム、順位ともに及ばなかった。しかしバトンと 4 人の調子次第では、全カレはそう遠い目標ではないと思われるので次の機会が楽しみである。(長田)

男子 4 ×400mR

予選(2 組 3 着＋2)
1 組　京都大　3:18.38　6 着
(1)高橋　昂生（1）
(2)室　和希（4）
(3)前田　朝陽（M1）
(4)藤田　雄大（M1）

男子 4×400mR 予選には、高橋(1)、室(4)、前田(M1)、藤田(M1)が出場した。高橋は走幅跳で 3 本の跳躍を終えたすぐ後の出走であったが、強豪校に食らいつき 1 走としての役割を充分に果たした。室は先行する立命館大学を序盤で抜かす積極的な走りを見せたものの、後半は少し苦しい走りとなった。前田、藤田ともに前半から前を追ったが、関西上位校の背中は遠く、予選通過した大阪教育大学にも僅かに破れ、悔しさの残るレースとなった。(岩本)

1 回生ながら八面六臂の活躍をみせた高橋(1)

女子 100m

予選(6 組 3 着＋6)
4 組　三好　紗椰（3）　12.77(-0.1)　6 着

女子 100m 予選には三好(3)が出場した。レース全体を通して前を追う展開となったが、向かい風に対しても自身の走りを崩さず、大舞台での強さを発揮して PB となる 12.77(-0.1)を記録した。(髙田)

女子 200m

予選(6 組 3 着＋6)
4 組　三好　紗椰（3）　26.23(-1.1)　6 着

女子 200m 予選には、4 組に三好(3)が出場した。前半から出遅れたものの、自身のもつ蒼穹記録にあと 0.03 秒と迫る好タイムをマークし、組 6 着でゴール。風次第では 25 秒台も視野に入るレースだっただけに、今後の記録更新に期待がかかる。(山田)

女子 400m

予選(5 組 2 着＋6)
5 組　森尾　美月（3）　1:03.10　8 着

予選 5 組に森尾（3）が出場した。事前のランキングから厳しい戦いになることが予想されていたが、冬季の間にスピード練を積み、関西インカレに臨んだ。結果は前半から後れを取り、組 8 着でゴールした。本人のコンディションは万全の状態ではなかったが、関西インカレという大舞台でペース配分を考えたレースであり、今後の課題も明確になったので、これからの改善、伸びに期待である。(益田)

女子 4 ×100mR

予選(3 組 2 着＋2)
1 組　京都大　52.52　8 着
(1)新保　歩（2）
(2)森尾　美月（3）
(3)齋藤　あおば（2）
(4)中野　直子（2）

女子 4×100m には新保(2)-森尾(3)-齋藤(2)-中野(2)と若いメンバーが揃った。レースは序盤から他大学に離される厳しい展開。結果は 52"52 で 8 着となった。他のチームとの現状の差を突きつけられたが、女子選手がチーム内に増えたことで今後の対校戦へ向けてチーム内で競い合い底上げが

なされることも期待できる。若いチームなので今後が楽しみである。(長田)

女子４×400mR

予選(3 組 2 着＋2)
3 組　京都大　4:13.34　6 着
(1)三好　紗椰（3）
(2)森尾　美月（3）
(3)新保　歩（2）
(4)小坂　みゅ海（M1）

女子４×400mR には三好(3)、森尾(3)、新保(2)、小坂(M1)が出場した。三好は 200m 予選に続いてのレースであったが、他大学の選手に必死でついていった。森尾は大阪国際大学の選手と並んで走った。中盤まで粘ったものの後半で差を離される苦しい展開となった。新保、小坂も前と距離が離れた中での走りであったが、一生懸命前を追った。目標達成には届かなかったが、今後を期待させるようなレースとなった。(岩本)

～中距離～

男子 800m

予選(4 組 1 着＋4)
1 組　木村　佑（M2）　1:52.84　4 着
2 組　西川　洸平（2）　2:05.54　7 着
3 組　平山　悦章（2）　1:56.60　6 着

予選 1 組には木村(M2)が出走した。前半は良い位置でレースを展開し、400m 通過は 54”4 で 3 番手だった。先頭に喰らいつくものの、最後に踏ん張れず 4 着でフィニッシュ。春から徐々に調子を上げてきたが、惜しくも決勝進出はならなかった。前日の 1500m 予選から切り替え、経験値を感じるレース展開だった。予選 2 組には西川(2)が出走した。1 周目は集団について走るが、後半に失速した。前日の 1500m との連戦だったためか、普段のような粘りが見られず、悔しい結果となった。予選 3 組には平山(2)が出走した。他の組同様、ハイペースな展開となった。前半を普段以上のハイペースで入ったものの、後半をまとめあげ、セカンドベストだった。全体として言えるのは、一周目からハイペースであったことだ。３名ともはじめの 200m を 26”6 程で入っており、終盤のレースが動くときには余力がない状態だった。こうしたハイレベルな戦いに如何に加わるかが重要になってくる。この悔しさを次につなげたい。(須山)

惜しくも決勝に届かなかった木村（M2）

男子 1500m

予選(2 組 4 着＋4)
1 組　清原　陸（M2）　3:55.29
　　西川　洸平（2）　3:59.65
2 組　木村　佑（M2）　3:57.10

決勝
9 着　清原　陸（M2）　3:57.74

予選 1 組には清原(M2)、西川(2)が出場した。1 組は 1 つの集団となる形で 400m を 62 秒 5 で通過し、清原、西川は様子を見つつ集団中盤からレースを運ぶこととなった。その後もレースは安定したペースで進み 800m を 2 分 7 秒で通過するなど清原、西川も集団中盤から機会を伺う状態が続いたが、ラスト 1 周目前となるホームストレートで一気に大体大の鈴木選手が仕掛けレースはハイ

ペースへと切り替わった。そんな中でも清原は落ち着いた様子で前方へと上がっていき、先頭選手をうまく使いながら 2 着でフィニッシュし予選通過。一方の西川もスパートをかけ、ラスト一周を好タイムで走り抜け自己ベストを更新する活躍をみせたが、先頭集団には惜しくも離されてしまい 9 着でのフィニッシュとなった。

続いて行われた予選2組には木村(M2)が出場した。2 組は最初の 100m で大経大の寺谷選手が先頭に立つと、そのまま 400m を 64 秒で通過し 1 組目よりも少し遅いペースでのスタートとなった。そのなかで木村は、着順での予選通過ラインとなる 4 番手につけておりそのままこの好位置を保つ形でレースを運んでいく。レースは中盤、膠着状態へと入りペースが徐々に遅くなっていく展開となっていたが、残り 1 周となると共に複数の選手が先頭へと上がっていき、ラストのスパート勝負となった。これにより先頭集団は木村を含む 8 名へと絞られ木村もなんとか先頭集団で食らいついていったが、わずかに力及ばず 7 着でのフィニッシュとなり予選通過は叶わなかった。

男子 1500m 決勝には予選を勝ち抜いた清原（M2）が出場した。清原は号砲の合図とともに一気に先頭に立つと、レースを引っ張るかたちで最初の 400m を 63 秒で通過。レースはその後も清原が引っ張るかたちでつぎの 400m を 66 秒で通過するスロー展開となったが、残り 400m となった時点で数名の選手がスピードをあげて先頭に立ちレースは最終盤へと入った。清原を含む多くの選手がこれには対応したものの、残り 300m を切ったところで終始中盤から機会を伺っていた関西大の市林が猛烈なスパートをかけ一気にトップとなりそのまま 1 着でゴール。清原も最後まで素晴らしい走りをみせたが、ラストのスピード勝負でわずかに競り負け 9 着という結果だった。なお、このレースの結果は 1 着から 9 着までがわずか 2 秒の間に収まるという非常に混戦したものであった。（小笹）

女子 800m

予選(4 組 1 着＋4)
4 組　小坂　みゅ海（M1）　2:29.75　6 着

女子 800m予選には小坂(M1)が出場した。レースは序盤から先頭二人、少し離れて三人、また少し離れ小坂という形になった。一周目は前を懸命に追って 70 秒で走ったが、徐々にラップを落とし、終始単独走のままゴールした。目標の 2'25 にも届かず、悔しい結果となった。(斎藤)

女子 1500m

予選(3 組 4 着＋3)
1 組　中野　紗希(4)　4'56"41　13 着

女子 1500m 予選には中野(4)が出場した。レース前半から最後尾の集団に着く厳しい展開となった。ラストは意地で 2 人を抜いて 13 着でゴールした。前年の関西インカレでは決勝に進出したこともあり悔しい結果となった(大浦)。

～長距離～

男子 5000m

決勝
12 着　鈴木　洋太郎（M1）　15:01.73
21 着　津吉　順平（M2）　15:44.33

男子 5000m 決勝レースには津吉(M2)と鈴木(M1)が出場した。津吉は初の関西インカレ出場であり、鈴木は初日のハーフ、10000mに引き続き 3 種目目の出場となった。足立(M1)は 10000m と 3000sc に出場することから体の状態を考慮し棄権した。レース序盤は他大学の有力選手の牽制によりスローな展開となった。びわこ学院大学の 1 年生が集団を引っ張り、鈴木は先頭付近で積極的にレースを進め、津吉は集団後方で様子を伺いなが

ら走る。その後も牽制が続き、2800m 付近までは大きな集団でレースが進んだ。残り 2000m からレースは動いた。関学の上田、立命館大学の大森が一気にペースを上げ集団はばらけ、まもなく津吉と鈴木はついていけなくなった。その後も二人の選手は粘りの走りを見せるものの、先頭との距離は徐々に大きくなっていき、鈴木が 12 着、津吉が 21 着でのゴールとなった。(梅原)

男子 10000m

決勝
柴田　栗佑（M1）　30:37.96　6 着
足立　舜（M1）　31:48.09　20 着

男子 10000mには足立、鈴木、柴田（いずれも M1）が出場した。スタート直後から資格記録上位の関学の 3 選手が引っ張り、大教大の 1 人を残して全員で縦長の集団を形成する。2800m地点を過ぎた辺りで少しペースが上がったことで一気に集団はバラけ、鈴木、柴田は 9 位集団に、足立は 13 位集団に落ち着く。5000m 付近から柴田は 1 日目のハーフと同様、京産大・小嶋と前を追う展開に。一方鈴木、足立は単独走を強いられ、徐々に順位を下げていく。そのまま大きな動きもなくレースは進んでいき、最終周でペースを上げた柴田が見事 6 位入賞を果たした。鈴木、足立の両選手も粘りを見せ、それぞれ 15 位、20 位でゴール。全体としては立命館・茶木が一時は先頭でレースを引っ張ったり、大経大・島野が終盤まで 3 番手でレースを展開したりしていたものの、最終的には関学の 3 人が強さを見せた。(三嶋)

男子 3000mSC

決勝
4 着　柴田　栗佑（M1）　9:16.13
13 着　足立　舜（M1）　9:33.85

男子 3000mSC 決勝には、足立(M1)と柴田(M1)が出場した。スタート当初からランキング一位の嶋谷（関大 4）が飛び出し、ハイペースのレースとなる。序盤、足立は縦長となった嶋谷に次ぐ集団の前方、柴田は中盤辺りに位置を取った。先頭のペースダウンに合わせ、三周目に柴田はポジションを 5 番目まで上げる。足立はこのころからペースが落ちてポジションを下げ、4 周目終了時点で 9 番目あたりを走った。5 周目に三番手までが再びペースを上げたこともあり先頭からの距離が開くも、柴田は続く集団が完全にばらける中 4 番目を保持する。ラスト一周も苦しい中ながらラストスパートをかけ四位を譲らず、追い上げを寄せることなくそのままゴールした。一方で足立は中盤以降に落ちたペースを戻しきれず、13 番目にゴールした。柴田はこれによって出場全種目得点を達成し、大会全期間にわたって大車輪の活躍を見せた。一方で足立も本調子でない中で果敢に前方につけるなど、懸命なレースを見せてくれた。(服部)

～競歩～

男子 10000mW

5 着　平岡　拓（M1）　47:47.52
6 着　池田　尚平（4）　47:48.99

男子 10000mW には平岡(M1)、池田(4)が出場した。序盤からハイペースなレースとなり、集団が分かれ、平岡、池田は後方の集団でレースを進めた。中盤以降は平岡、池田の 2 人で歩き続け、前を入れ替わりながら、前方との差を縮めていった。平岡は 5 位、池田は 6 位の目標を達成し、京大はこの競技で 7 点を獲得した。(宍倉)

～跳躍～

男子走高跳

決勝
1 位　山中　駿（2）　2m13

7 位　鴛原　泰輝（3）　2m00

男子走高跳には鴛原（3）と山中（2）が出場した。鴛原は 1 m90 から競技を開始し、１回目では動きに硬さがみられたが、２回目でクリア。1m95 では、緊張もあり１回目、２回目は失敗に終わったが、３本目に、追い込まれた中で見事成功させた。この成功跳躍でうまく波に乗り、2m00 は１回目で成功した。その後の 2m05 はクリアならず、2m00 で競技を終了した。事前のランキングを返して見事に７位入賞を果たした。山中は 2 m05 から競技を開始し、2m05 と 2 m10 はともに、余裕をもって１回目でクリア。２m13 ではわずかにバーに触れたが、これも１回目でクリアし、２m13 で優勝を決めた。その後大会新記録および京大新記録を狙って 2 m21 に高さを上げた。３回とも惜しい跳躍ではあったが、クリアはならず、記録は 2 m13 となった。大会新記録とはいかなかったが、圧倒的な強さを見せつけての優勝であった。(深井)

大会新記録に挑戦し場内を大きく湧かせた山中(2)

男子棒高跳

黒川(M２)は怪我のため欠場した。

男子走幅跳

決勝

7 位　高橋　昂生（1）　7m41(+1.8)

17 位　齋藤　啓（3）　6m87(+4.2)

男子走幅跳には高橋(1)、齋藤(3)が出場した。追い風に吹かれ、序盤から記録を残す選手が多い中、1 本目、高橋(1)は 6m98、齋藤(3)は 6m79 と満足のいく跳躍には至らなかった。2 本目は 2 人ともファールをし、記録なし。3 本目では、高橋(1)が 7m41 に記録を伸ばし PB を更新し、5 位で TOP8 に残った。齋藤(3)は、6m87 に記録を伸ばしたものの、資格記録に近い跳躍は出来ず、17 位で試技を終了し、非常に悔しい結果となった。高橋(1)はマイルのため 4 本目からは全てパスし、7 位で競技を終えたが、1 回生ながら得点し、さらに PB を更新するなど、今後の活躍が期待される結果となった。(紀之定)

男子三段跳

決勝

4 位　梶　慎介（3）　15m26(+0.9)

14 位　齋藤　啓（3）　14m71(+1.9)

自身のペースに持ち込み 4 位入賞した梶(3)

男子三段跳には齋藤(3)と梶(3)が出場した。齋藤の記録は 14m71(+1.9)の自己ベストであった。助走の流れがよくコンディションにも恵まれた高記録であったが、全体的なレベルが高くトップエイトに入ることはできなかった。梶は１５m26(+0.9)の記録で見事 4 位に入賞した。手拍子などで上手く場を盛り上げて梶のペースに持っていくことができた。悔しくもあり嬉しくもある結果かもしれないが、部全体に貢献し、さらに今後

に繋がる良い試合になったであろう。(山中)

～投擲～

男子砲丸投

決勝
10 位　眞鍋　聡志（4）　12m94

男子砲丸投には眞鍋(4)が出場した。眞鍋は大会 1 週間前にもウェイト種目において MAX を更新するなど身体の状態は関西インカレに向けて仕上がってきていた。当日に関してもよく動けており調子は上向きで得点が期待された。1 投目は 12m94 を投げ、暫定 8 位につけた。しかしながら 2 投目はファール、3 投目にはそれまで持ちこたえていた天気が急変し、激しい雨の中での試技となった影響か、12m38 と記録を伸ばせず 10 位に終わるという悔しい結果となった(岡本)。

男子円盤投

決勝
11 位　眞鍋　聡志（4）　39m24

T&F の部 3 日目の男子円盤投には眞鍋(4)が出場した。2 日目に行われた男子砲丸投から連戦となった眞鍋だが、練習状況的に大きく PB を更新して得点する期待が寄せられていた。練習投では 40m ライン上まで投げ、連戦による疲労が残るなかでも調子の良さを感じさせた。競技開始 1 投目、緊張からか少し硬い投げとなってしまったが 39m24 と自己ベストを更新する投げをみせた。1 投目終了時点では 9 位につけた。しかし 2 投目 3 投目では続けて右に抜けた投げとなり、ともにファール。最終 11 位に終わった。8 位以上の選手は全員 40m を超える投げで安定させていたことを考えると力の差を見せつけられる厳しい結果となった(岡本)。

男子やり投

決勝
8 位　澤田　剛（M2）　61m93
9 位　山野　陽集（M1）　61m34

最終日男子やり投には山野(M1)、澤田(M2)の 2 名が出場した。気温は約 30℃、湿度 27%とカラッとした暑さのコンディション。山野は昨シーズンからなかなか結果が出ず不調が続くなかでも根気よく練習を続け、その成果を発揮できるかに注目された。1 投目は 56m69 と伸びない。しかし 2 投目に 61m34 を投げ PB をマーク。旧 PB も同じく 2 年前の関西インカレの舞台で出したものであり、大きな場で結果を出す胆力に驚かされた。だが 3 投目の記録は伸びず、惜しくもエイトラインには届かず 9 位に終わった。一方、澤田は冬季練習を経て一段と力をつけ、自身最後となる関西インカレに向けて好調を維持していた。しかしながら、競技当日は体が重くいつもの動きができていないように見受けられた。実際、2 投目までは 60m を超える投げができず、3 投目に 61m93 を投げてエイト進出を果たしたものの、それ以降の試技では 60m オーバーが出せず 8 位に終わった。1 点は死守したが、表彰台を目標に据えており調子も上向きだっただけに非常に悔しい結果となった。

女子円盤投

決勝
8 位　中芝　美玖（2）　37m93

女子円盤投には中芝(2)が出場した。1 投目多くの選手がファールする中で中芝は 37m21 とまずまずの記録を出し、2 投目では 37m93 を投げて記録を伸ばした。7 位でエイト進出を決めると 6 投目まで安定した記録を残したが、大きな 1 投を出すことはできずに 8 位で競技終了した。自身が目標としていた 40m 以上の投げを達成することはできなかったものの、他大生のため農学部グラウンドで練習ができないという極めて厳しい環境のな

かでランキングを覆して 1 点を獲得したことは大いに評価できるだろう(岡本)。

女子やり投

決勝
1 位　篠田　佳奈（2）　50m56
3 位　中野　水貴（M2）　48m24

　女子やり投には、中野(M2)と篠田(2)が出場した。練習投擲中に大雨が降るも、試合が始まると雨はあがった。中野が 2 投目で 48m24 と大きく PB と蒼穹新を更新し、2 位についた。篠田も 46m24 と PB 近くを投げ、3 位についた。しかし、3 投目で 50m56 と PB を出し、2 投目で中野が更新した蒼穹記録をさらに更新して 1 位についた。そこからお互いに高め合い、更なる記録更新を目指したが、篠田が 1 位、中野が 3 位という結果で試合は終了した。2 人とも PB を更新しランキングを大きく覆すだけでなく、1 つの試合で蒼穹記録が何回も更新されるという熱い試合展開を繰り広げた。そして、京大女子選手史上初の優勝という快挙を成し遂げた。これらの結果を受けて大きくチームが勢いづいた。(中芝)

各紙を賑わせた篠田(2)と蒼穹新記録を更新した中野(M2)

～混成～

男子十種競技

14 位　長谷川　隼（M2）　5543 点
100m　730 点　11.61(-0.4)
走幅跳　582 点　5m98(-0.4)
砲丸投　411 点　8m76
走高跳　464 点　1m60
400m　749 点　51.46
110ｍＨ　758 点　15.78(-1.0)
円盤投　336 点　23m36
棒高跳　403 点　3m20
やり投　522 点　45m46
1500ｍ　585 点　4:55.61

男子十種競技には長谷川(M2)が出場した。

100ｍでは組先頭が 11.13 でゴールする展開の中 11.61 でゴールした。PB の 11.41 には届かなかったものの向かい風 0.4m の中で好記録をマークした。(平山)

走幅跳では 1 本目、確実に記録を残していきたい中で 5m98(-0.4)をマークする。続く 2 本目も 1 本目と同じ 5m98(＋0.9)をマーク。修正を加え臨んだ 3 本目は 6m30 付近に着地する跳躍を見せたが、爪先が板からわずかに出てしまい惜しくもファールとなった。(今西)

砲丸投では 1 投目で 8m31 をマークし好調にスタート。3 投目では自己ベストに迫る 8m76 を記録して 411 点を獲得した。(平山)

400m ではスタートから快調にスピードを出し、内側の選手に距離を詰められながらそれをうまく利用する形でレースを進めた。ホームストレートで大半の選手に大きく差をつけ、5 レーン同志社大学の選手とラストまで競り、1 着は譲ったものの自己ベストをマークし 749 点を獲得した。(平山)

走高跳では 1m45 からスタートして 1m55 まで危なげなくクリア。1m60 は 3 跳躍目で辛くもクリアする。自己ベストタイとなる 1m65 のクリアはならなかったものの 464 点を獲得した。(平山)

110ｍＨでは序盤は他選手に大きく遅れを取ることなく、また歩調のズレやつまずきによる極端

な減速もなかった。前日の疲労もあったと推察され、記録は 15.78(-1.0)であった。(髙田)

円盤投では普段の練習では確率こそ低いものの 30m を投げたことがあり、期待が持てる種目であった。1 本目、まずは確実に記録を残す投擲で 23m17 をマーク。続く 2 投目以降は 30m 超えを目指しファール覚悟で勝負に出る。その 2 投目は右抜けしてしまいファール。3 投目は体の開きを待ち切れずリリースのタイミングが合わない投擲になり 23m36。悔しい内容で 7 種目を終えた。(今西)

棒高跳では 2m80 から競技開始。1 本目は進みが悪く、グリップを下げて 2 本目はきっちり成功させた。3m はバーを越えたもののポールを返しきれず失敗し、グリップを上げて調節し、クリア。3m20 は余裕でクリアし、調子が上がってきたので、3m40 に備えてポールアップした。3m40 の 1 本目は流れてしまい、さらにポールアップしたが、2 本目は進まず、アップライトを近づけた。しかし 3 本目も進まず失敗し、3m20 で競技終了した。(深井,中村)

やり投げでは 1 本目、低く鋭い弾道で 44m01 をマークする。続く 2 本目はやりが少し浮いてしまったか、記録は 37m04 のショート。最後の 3 投目は 1 投目よりもさらに記録を伸ばし 45m46。PB の 47m17 に迫る投擲を見せた。(今西)

1500m ではレース序盤、先頭を含む集団で上位も伺える位置を占めていたが徐々に後方へと順位を下げていき 4'55"20 で 12 着のゴールとなった。2 日目は PB には届かなかったが果敢に最後まで関西の強豪に挑み続けチームに勢いをもたらした。(長田)

女子七種競技

8 位　小西　菜月（4）　4270 点
　110ｍＨ　796 点　15.35(-1.4)
　走高跳　771 点　1m63
　砲丸投　552 点　10m34
　200m　608 点　28.29(-1.2)
　走幅跳　477 点　4m69(+0.7)
　やり投　579 点　35m38
　800m　497 点　2:46.79

女子七種競技には、小西（4）が出場した。

110ｍＨでは強い向かい風の中、今シーズン初レースながらセカンドベストをマークし、組 2 着でゴール。実力が拮抗する組だったため 1 着を取りたいところではあったが、その後の種目に弾みをつけるレースとなった。(山田)

走高跳において小西（4）は 1m63 と同種目において 2 位の好成績を残した。走高跳は小西が得意としている種目ではあるが、多くの選手にとって厳しい高さである 1m55 になってからようやく跳び始めるという強者の余裕は観客席から見ても周囲を圧倒しているように感じられた。1m55 では 2 本失敗したものの、しっかりと調整して 3 本目で見事に跳んだのにはさすがの実力だと言えるだろう。PB には届かなかったが、この記録が良い雰囲気を生み出したことで幸先の良いスタートを切れたと言える。(川崎)

多忙な中で調子を合わせ女子主将の意地をみせた小西(4)

砲丸投では一投目で 10m34 と全体で 4 位の記録をマーク。その後順位は変動したものの自己ベストを更新し関西インカレ B 標準も突破するこの好記録で 552 点を獲得した。(平山)

200m ではでは内側レーンの選手の猛追を受け、

ホームストレートでは周囲の選手に引き剥がされながらも向かい風 1.2m のなかで自己ベストに迫る 28.29 をマークした。1 日目の合計は 2717 点で自己ベストを更新した。(平山)

走幅跳では 1 本目に 4m69 の記録を残した。2 本目以降は、不安定な風の影響などにより記録は伸びなかった。苦手種目であったが、資格記録が 5m を超える他の選手もあまり記録が伸びず、結果的には合計得点では想定より小さな差でまとまった。(紀之定)

やり投では、一投目の 34m96 を上回る 35m38 を二投目にマーク。三投目は惜しくもファールとなったものの、579 点を獲得した。(平山)

800m は複数の選手と際どい点差で競る状況の中での出走となった。序盤から東大阪大学や大阪体育大学、立命館大学の選手が飛び出す展開となるも小西は自分のペースを維持し、第二集団の中ほどに位置を取る。400m 以降はだんだんと集団から離れていきタイムは 2:46.79 であった。ここで小西は 497 点を獲得した。七種合計の点数は 4270 点であった。(平山)

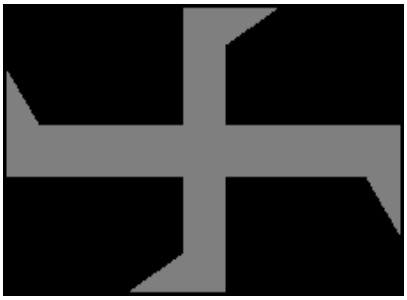
⑤ その他ご報告

・関西インカレを観戦いただいた OB・OG の方々の名簿を以下に掲載いたします。お暑いなかご足労いただきありがとうございました。また、ご足労いただいたにもかかわらずお名前を頂戴していない方にはこの場を借りておわび申し上げます。

渥美保 S.35
渥美裕子
天野くるみ R.1
池本忠司 S.49
伊藤智也 R.1
稲垣達也 H.28
三好稔彦 S.54
桂総一郎 S.51
勝村弘也 S.44
加藤寿昴 R.2
川井拓哉 H.30
熊谷元 S.59
鯉谷忠夫 S.41
小谷哲 R.1
後藤加奈 R.1
清水裕美子 R.1
下迫田啓太 H.27
谷口博紀 H.30
土屋維智彦 R.1
津野洋 S.45
恒石侑子 R.1
中江裕三郎 S.36
西川真悠 R.3
原田麟太郎 R.1
藤原忠義 S.41
前田裕也 R.2
眞野勝文 S.53
三神淳志 R.1
宮下欣二 S.51
森正治 S.51
森本正幸 S.41
山本和賢 S.43

（五十音順、敬省略）

・新入生名簿に関しましては次号に掲載いたします。



蒼穹ニュース　令和4年度　第1号
令和4年　5月21日発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部
編集者：紀之定玲司・平山悦章・益田椋多（副務）
特別協力：髙重広・平林里和子・髙山兼輔（学連員）
写真担当：五十嵐聖・松本良平・三嶋友貴（写真係）

陸上競技部 HP　http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/
陸上競技部記録 HP　http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku.htm
関西学連 HP　http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm
メールアドレス　hiryama.yoshiaki.33c@st.kyoto-u.ac.jp（平山）